

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

ひらばやし ゆきひろ

平林 幸弘 (北海道区水産研究所 業務支援課)

2012年の北太平洋

漁獲数

2013年のNPAFC科学調査統計小委員会(CSRS)における各国の報告によると、2012年1-12月の北太平洋の漁獲数は4億6,482万尾で、前年6億696万尾の77%でした(図1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い3億624万尾で全体の66%を占めていますが、前年比では67%と減少しました。次いでサケが9,652万尾(構成比21%,前年比113%)、ベニザケが5,448万尾(構成比12%,前年比98%)と続き、これら3魚種で全体の98%以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ567万尾(前年比94%),147万尾(前年比98%)となりました(図1A)。地域別では、ロシアが2億8,758万尾と最も多く、以下、アラスカ州1億2,740万

尾、日本4,410万尾、カナダ301万尾、WOCI(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)270万尾、韓国4万尾と続いています(図1B)。

人工ふ化放流数

2012年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は50億2,995万尾でした(図1C)。前年の45億1,226万尾より約5億尾多くなっていますが、この差は主に、前年放流数に日本の本州太平洋分が含まれていないために生じたものです。

魚種別ではサケが30億9,164万尾で6割以上を占め、これに次ぐカラフトマス13億4,896万尾と合わせると全体の9割近くを占めます(図1C)。地域別では日本が17億9,261万尾、アラスカ州16億7,097万尾、ロシア9億1,629万尾、カナダ3億1,255万尾、WOCI3億2,783万尾、韓国971万尾となっています(図1D)。

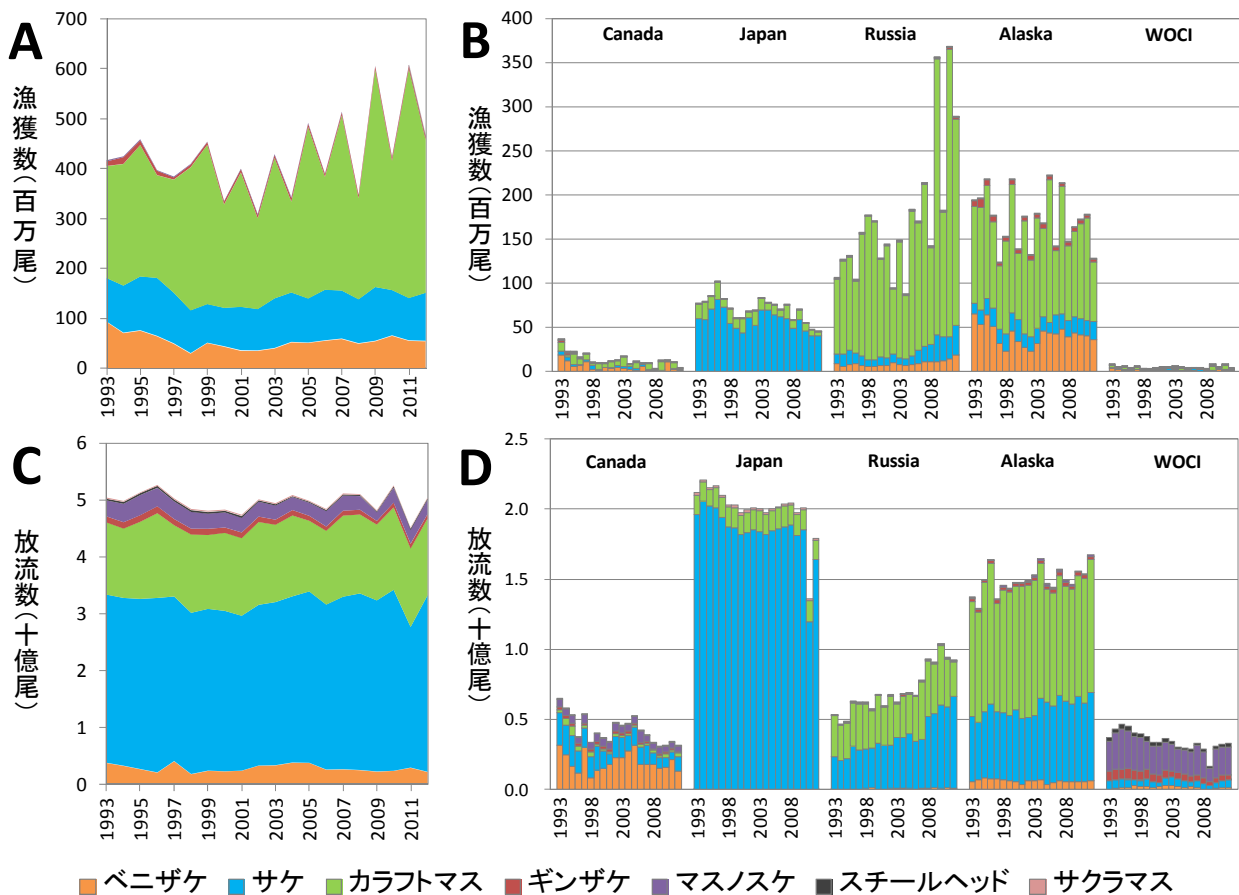


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)。1993-2010年は「NPAFC Statistical Yearbook」による確定値。2011年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値。1998年までのロシアにはEEZ(排他的経済水域)で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略している。

2013 年度の日本

サケ

2013 年度の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 5,185 万尾、前年度同期比 114% となっています（図 2）。近年の来遊数は 2004 年度から減少傾向を示し、2010-2012 年度は 4,000 万尾台が続いていましたが、2013 年度は 4 年振りに 5,000 万尾を上回りました。総採卵数は 12 月 31 日現在で 20 億 3,145 万粒、前年同期の 111% となっています。北海道では計画を満たす採卵数、本州でも計画まで数%を残す程度の採卵数が確保されており、全体の放流数も計画（約 17 億 2,400 万尾）と同等数になるものと見込まれます。

カラフトマス

主産地の北海道における 2013 年度来遊数は 325 万尾で前年度比 147% でした。カラフトマスは来遊数が隔年で変動する特徴があり、2003 年度以降、奇数年は豊漁年、偶数年は不漁年にあたります。2013 年度は豊漁年の年回りとなりますが、近年の豊漁年の中では最も少ない来遊数になりました。総採卵数は 1 億 4,138 万粒で計画数の 83% に留まり、放流数も減少するものと見込まれます（図 3）。

サクラマス

2013 年度の北海道における河川捕獲数は 6,766 尾で前年度比 82% となりました。2000 年度以降の捕獲数に大きな年変動が見られ、今年度は前年に続き、比較的少ない捕獲数でした。採卵数は 667 万粒で計画数を充分満たす数となりました。なお、2011-2013 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

ベニザケ

2013 年度の北海道 3 河川（安平川・静内川・釧路川）における河川捕獲数は 361 尾で前年度比 52% となりました。

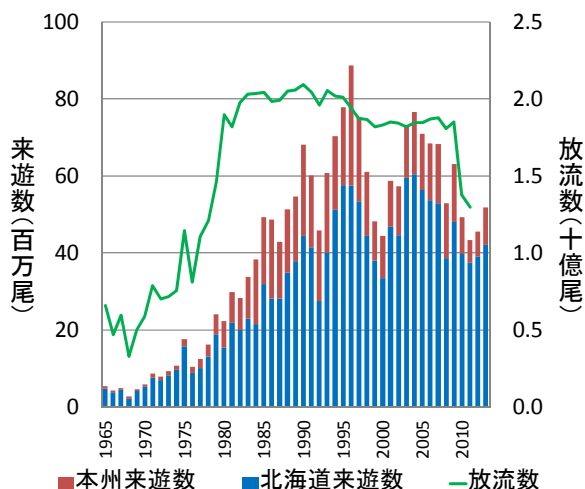


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数. 2013 年度来遊数は12月31日現在. 2010-2011年度放流数は岩手、宮城県を含まない.

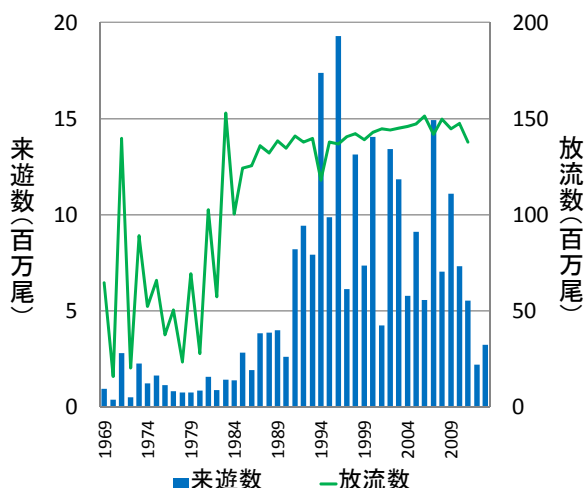


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数.

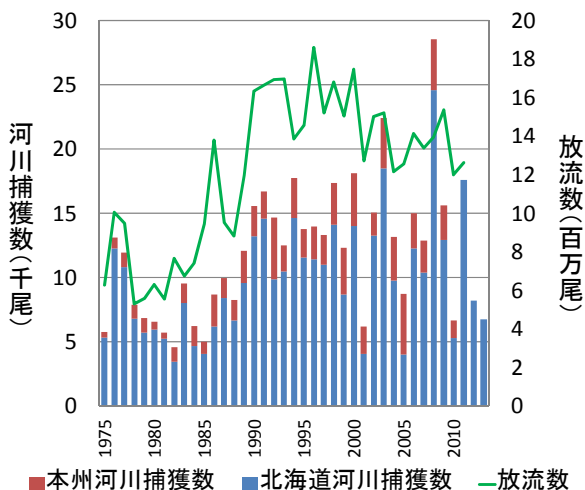


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数. 2011-2013年度の本州河川捕獲数は確認中.